

地域母子保健福祉情報紙 No.275

公益社団法人 母子保健推進会議

親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的（抜粋）
国及び地方自治体
関係諸団体と連携協力して
母子保健の重要性を啓発し
母性の健康を守り たかめ
心身ともに健全な児童の
出生と育成に寄与してまいります

伴走型の皆支援・皆保育を目指して

子どもと家族のための
緊急提言プロジェクト



左から松田さん、佐藤共同代表、榎原事務局長

すべての子どもとその家族、妊産婦を継続的に支え、孤立させない仕組みを作ることを目的に活動している「子どもと家族のための緊急提言プロジェクト」の方々に、設立の経緯や活動の概要などについてお話をうかがった。

<出席>

子どもと家族のための緊急提言プロジェクト

共同代表 佐藤 拓代 先生

(全国妊娠SOSネットワーク代表理事)

子どもと家族のための緊急提言プロジェクト

事務局長・運営委員 榎原 智子さん

(恵泉女学園大学客員教授)

NPO法人せたがや子育てネット

代表理事 松田 妙子さん

聞き手 本会議常務理事 鍵溝和子

——子どもとその家族への支援については、令和5年度に「こども家庭庁」が創設される予定など、行政の枠組みも変えるような変革の時期にあると思います。貴プロジェクトでは子育て家庭へのアンケートの結果をエビデンスの一つとして、社会へ向けての記者発表、政治家の方々への働きかけなど活発な活動をされています。まず、このプロジェクト設立の経緯や背景などをお聞か

せいただけますか。

榎原事務局長 私たちは、母子保健も含め子どもと子育て家庭を支える政策について、社会も鑑み、地域格差、経済格差などなく、誰でも、皆が子育てしやすい環境をつくっていくことが必要ではないかという問題意識で政策提言活動をしている任意団体です。

取組のきっかけは、新型コロナウイルスの感染拡大です。国民生活に重大な制約を課す動きが始まりましたが、その対象は、子どもが最初でした。2020年2月末に子どもとその家庭に向けて一斉休校が宣言され、4月に緊急事態宣言が発出されました。以前私は、内閣府の子ども・子育て会議の委員を務めており、また当時新聞記者としてつながりのある子育て関係の方々との意見交換の中で、子どもと家族を家庭内に押し込めたままにして何の社会的支援も考えずにおいて大丈夫か、虐待や不適切な養育の増加などが起こるのではないかと危機感を持ったのです。そして一つのアクションとして、同年5月に子育て家庭に向けて、何か困っていることはないかと、Web上で緊急アンケートを実施しました。

その結果6,000件以上の回答があり「コロナ禍で何か困ったことがあったか」という質問に7割の母親が「困った」と回答、その理由としては、子どもとの過ごし方がわからな

今月のページ

伴走型の皆保育を目指して 子どもと家族のための緊急提言プロジェクト … 1～5

紙上セミナー：8020の里づくり「噛む健康法 フレッチャーイズム」 … 6～7

日頃の活動をご紹介ください！「8020の里賞」応募受付中！／「健やか親子21全国大会」、本年度は通常型で開催／編集帖 … 8